

宮柁二記念館だより

2023.3.25
第58号
発行 宮柁二記念館
TEL・FAX
025-794-3800



2022年11月12日(土) 第28回宮柁二記念館全国短歌大会表彰式

「越後魚沼ほりのうち宮柁二マップ」の旅

三年ぶりに表彰式を開催しました。会場を変え、参加人数を抑え、時間を短縮しての開催でした。受賞者の皆様にはご迷惑ご不便をおかけしましたが、ご協力ありがとうございました。表彰式の様子は、魚沼市公式YouTubeチャンネルで公開しています。宮柁二記念館ホームページよりご覧ください。

表彰式終了後、選者の大下一真先生と水上比呂美先生、そして、高野公彦先生をご案内して宮柁二墓所を訪れました。表彰式に参加いただいた宮家ご家族と合流し、鎌倉瑞泉寺ご住職でもある大下先生からお経をあげていただきました。

翌日は、「越後魚沼ほりのうち宮柁二マップ」掲載の宮柁二ゆかりの場所に先生方をご案内しました。矢振間川(破間川)と魚野川の合流点を眺め、越後三山を遠望し、雁木通り、根小屋橋を通って築場まで行きました。堀之内小学校の歌碑、宇賀地橋の歌碑、街中にあるいくつかの道標も見つけました。

(マップがお手元がない方は、宮柁二記念館ホームページをご覧ください。) さて、「コスモス」二月号では水上先生、三月号では高野先生がこの二日間を歌に詠んでくださいました。先生方からご了解いただきましたので、ご紹介します。

〈宮柁二マップ〉を見つつ堀之内小へ案内する記念館館長

水上比呂美

霜月の皇大神宮境内に残る茅の輪を風がくぐりぬ

少年の柁二先生頭ちきたる雁木の街並み秋空高し

宮柁二の墓前で大下一真氏「トラヤヤー」とおごそかに誦す

生まれぐにの此の山と川思ひけむ戦地の夜のひとりの兵は

高野 公彦

少年の宮肇めし町を来て家並に時に廃屋混じる

コロナ禍で梁廃されし魚野川梁なき跡を清き水ゆく

髯白き師を偲びつつ根小屋橋に立てば四方に山紅葉見ゆ

〈緑川〉飲みて越後の旅を終へ家にて〈越乃雪蔵〉を飲む

白秋逝き柁二逝き、そして曉二逝きいづれ我も逝き(うた)は生き継ぐ

令和五年度はコスモス創刊七十周年を記念した企画展を計画しています。新たに収蔵した宮柁二自筆資料、コスモス表紙原画、記念館にお送りいただいた各支部の歌誌等の展示を計画しています。

六月三日からの予定です。ご来館をお待ちしております。

報告

第二十八回宮柁二記念館全国短歌大会

応募総数 一一一、七五二首

【一般部門】

最優秀賞

渡辺 晃子

牧 恵子

山崎とし子

強瀬 忠昭

庭野 治男

白菊の綿にくるまれひと眠り不老長寿になってしまった

そのむかし海だったという記憶あり草はら時おりさざ波寄せる

山古志の青葉若葉の照る五月牛の角突き初場所が成る

ミサイルのようなボンベを積み来てぬガス検針の雨合羽着て

戦争を廊下の奥にあらすして廊下の前に立たすプーチン

新潟県魚沼市

埼玉県川口市

新潟県新潟市

埼玉県深谷市

東京都杉並区

【ジュニア部門（小学生の部）】

最優秀賞

安藤 丈

須田 朋美

尾沢 成海

田中 りお

山田 祥楓

なつのひにすいてたこうえんうれしくておしりかもえたながいすべりだい

珠算塾パチパチパチパチカチャカチャカそるばん達の小鳥の会話

空でなく海に映った花火見るじいも空で見るといいな

夏休み家族でいったでかいプールにいちちゃんいいな足がつくんだ

飛びこんだ、打球は速い、サードゴロ、グラブにかすり、はじめて飛んだ

新潟大学附属新潟小学校

魚沼市立宇賀地小学校

魚沼市立広神東小学校

魚沼市立広神東小学校

魚沼市立湯之谷小学校

【ジュニア部門（中学生の部）】

最優秀賞

渡邊 優太

鈴木 太翔

川村 奏太

猪貝祥太郎

大立目芽依

夏季休暇競書大会待ち遠し筆走らせてさあ「白雲万里」

ゴールしてしばらくたってアナウンス最初に呼ばれた自分の名前

蟬の声近くに聞こえ振り返る僕の背中は樹木じゃないよ

「久しぶり」自粛期間後クラブにて口見えないが目で笑い合う

学校の帰りにのぞくポストから躍る筆跡友の字を待つ

長岡市立西中学校

岩沼市立岩沼中学校

中央大学附属横浜中学校

魚沼市立小出中学校

長崎市立淵中学校

【ジュニア部門（高校生の部）】

最優秀賞

齊藤 壱

坂爪 結子

引木 花

坂口幸太郎

森田 蒼生

「背高いね」「何cmあるの？」聞き飽きた容れ物だけの僕じゃないから

たくさんのおいしい食はプラスチック海鳥の胃は満たされて死す

花散らふ枕詞を忘れない君の名前に秋があるから

この夏がもう最後だと汗臭いスパイク・ミット磨く玄関

マウンドの照明の影ピッチャーの四つの分身マウンドにある

長岡工業高等専門学校

昭和女子大学附属昭和高等学校

東京学館新潟高等学校

長岡工業高等専門学校

東京学館新潟高等学校

第28回 短歌大会 応募状況

区分	応募作品数	応募者数
一般部門	881首	414人
ジュニア部門	11,871首	6,189人
小学生の部	1,736首	941人
中学生の部	4,712首	2,418人
高校生の部	5,423首	2,830人
総数	12,752首	6,603人

さて、令和五年度・第二十九回宮柁二記念館全国短歌大会は、五月一日から受付を始めます。締め切りは、一般部門七月三十一日、ジュニア部門九月五日です。準備ができ次第、宮柁二記念館ホームページに実施要項・応募用紙を掲載いたしますのでご利用ください。選者は、冲なも先生（熾）と橘芳岡先生（コスモス短歌会）にお願いいたしました。大勢の皆様に応募をお待ちしています。

第二十八回宮柁二記念館全国短歌大会は、選者に大下一真先生（まひる野）、水上比呂美先生（コスモス短歌会）をお迎えして実施いたしました。前年度を上回る一二、七五二首の応募をいただきました。大変ありがとうございました。

また、十一月十二日には令和元年以来となる表彰式を行うことができました。新型コロナウイルス感染症予防策として、これまでの会場をより広い場所に変更し、参加人数を制限し、時間を短縮しての開催ではありましたが、受賞者の皆様、ご参加いただいた皆様からご協力いただき無事終了することができました。心より感謝申し上げます。

なお、表彰式の様子は、魚沼市公式YouTubeチャンネルにて配信しております。宮柁二記念館ホームページよりご覧ください。

【選者のことば】

心がピピッと受信したら

水上 比呂美

八月半ば一般の部の詠草が届きました。九月半ばジュニアの部の詠草が届きました。このときを胸を弾ませながら待っていました。一首一首拝見しながら、この詠草の中から、選をして順位をつけるのはとても難しいと思いました。作者の方々の三十一文字に込められているパワーや感謝や愛情が伝わってきました。惜しくも入選を逃した作品も、歌の対象に寄せる優しさが印象的でした。

一般の部の上位に選んだ歌は、ほんとうに素晴らしく魅力的でした。不思議な昔話のような歌、郷土の行事の復活を喜ぶ歌、現代の不穏な社会情勢を暗示させる歌、

思いがけない方向から死を見つめる歌、懐かしい風景を描いた歌、絵画のような美しい歌、越後に生きる矜持を詠った歌、年老いた友人を温かい眼差しで見つめる歌、心に沁みました。

ジュニアの部の歌は、情景があざやかに目の前に浮かんでくる歌がいいなと思いました。小学生らしいわくわくする歌、家族を詠んだ歌、友だちとがんばった歌、先生の意外なところを見つけた歌、それぞれ歌に詠まれたその人のことが、大好きだということが伝わってきました。中学生の歌は、瑞々しい感性が光る歌や枕詞を使った高度な歌に感動しました。

【選者のことば】

変わるもの変わらないもの

大下一真

たくさん作品を読ませていただきました。中学生、高校生の皆さんは募集期間が夏休みと重なったこともあって、いかにも青春まっただなかの夏を多く歌っていたいただきました。宿題が多くてたいへん、やってもやっても終らない宿題の山といった作品を読みながら、選歌も数が多いとほんとうに読んでも読んでも終らない短歌の山でした。でも、皆さんが真剣にこの伝統詩に立ち向かってくださったその心の熱さに負けまいと、私も頑張りました。久しぶりに自分が青春に立ち返ったような気もしました。そして、時代の移ろいの中で、変わるものと変わら

ないものがあることも思いました。変わったものは、例えばスマホやゲーム、それに付随するもので、正直、理解できない世界もありました。一方で、人や家族を思う気持ち、自分の将来を考える思いや不安などは、私の六十年前と変わっていないようです。さらに言えば、自然の移ろいに何かを感じる心は、六百年どころか千年のむかしも変わりません。宿題で作られた、二度と作りたくないと思っている方がおられるかも知れません。でも、人生を重ね、心のあり方に変化が起き、自分の思いを何かを借りて述べてみたいと思った時、この経験が生きるはず

です。短歌は、人の小さな心の動きを語るのにちょうどよい器なのです。だから、昔のむかしから、ずっと受け継がれ作られ続けて来たのです。小中学生、高校生の皆さんに向かっていろいろ申しましたが、一般の方に向かってでも申し上げることは、さして変わりません。一般の方は、この形式を選んで作られました。素晴らしい作品に出会わせていただきました。畢竟は、この形式をいかに深く愛するか、です。今後のご精進を期待します。

高校生の方たちは、夏休みの課題がたくさんあって、時間の限られた中で短歌を詠んだことがわかりました。部活の歌、恋の歌に、若さが弾けていて新鮮でした。歌を詠むなんて、めんどくさいと思った人も、がんばって歌を提出してくださいましたね。五七五七七と指を折って、もつといい言葉がないかな、胸の中の思いがあの人に届くといいな、と考える時間はとても豊かな時間です。悲しいとき、寂しいとき、ときどきときどきとき、心がピピッと何かを受信したら歌に詠んでみてください。

水上 比呂美 (みなかみ ひろみ)

1951年横浜生まれ。青山学院女子短期大学国文科卒。娘二人が同大学同学科入学し、創作短歌の授業で、宮柊二先生の門下の高野公彦先生に短歌を習いました。

そのころ私は、自己流で短歌を作っていましたが、私の四十九歳の誕生日に娘たちが青短専攻科の入学要綱をプレゼントしてくれました。卒業して三十年近くたって母校に再入学し、私も高野先生に短歌を教えていただきました。そして2001年「コスモス」短歌会に入会しました。

歌集は『ざくろの水脈』『潤み朱』『青曼珠沙華』の三冊があります。コスモスの選者と編集を手伝っています。青短の卒業生と「青りんごの会」というサークルで短歌を勉強しています。NHK学園の短歌の添削講師をしています。似顔絵を描くのが好きです。



大下 一真 (おおした いっしん)

昭和二十三年、静岡県生まれ。昭和三十一年「まひる野」入会、現在編集発行人。「方代研究」編集人。現代歌人協会会員。日本文藝家協会会員。鎌倉歌壇会長。歌集に「存在」「掃葉」「足下」(第三十二回日本歌人クラブ賞受賞)「即今」(第十四回寺山修司短歌賞受賞)「月食」(第十六回若山牧水賞受賞)「草鞋」「漆桶」(第五十六回沼空賞受賞)。著書に「山崎方代のうた」「鎌倉山中小庵日記」「鎌倉花和尚独語」。湯川晃敏氏(日本写真家協会会員)との共著に写真集『方代さん』『酒酒酒酒』、フォトエッセイ『大下一真 方代さんの歌をたずねて』など。



令和4年度事業① 令和4年度に実施した事業をご紹介します。

宮柵二記念館 施設見学・職場体験・職場訪問

県立堀之内高等学校

5月13日、県立堀之内高等学校の生徒・職員が来館しました。

前半は、館長が写真と資料を使って宮柵二の生涯と短歌の歴史、館内の展示物について説明しました。後半は、資料などを参照しながら展示品を鑑賞しました。

堀之内中学校2年生

7月5日、魚沼市立堀之内中学校の2年生が職場体験学習を行いました。

朝は、記念館職員と一緒に建物内外の清掃や気温・湿度の計測などの開館準備。午前中は、宮柵二を紹介するVTRの視聴、展示品の鑑賞、前庭の歌碑や展示室以外の施設の見学。午後からは、短歌大会の作品整理などの作業を行いました。

フラワールーム中学生

7月13日、フラワールーム（魚沼市適応指導教室）の中学生が来館しました。

各展示室を移動しながら館長が企画展・常設展・全国短歌大会短冊展の説明を行いました。その後、短冊展の作品を鑑賞しながら、短歌について学習しました。

堀之内中学校1年生

10月26日、魚沼市立堀之内中学校の1年生が職場訪問学習を行いました。

最初に、記念館職員と一緒に開館準備作業などを行いました。その後、展示品について説明を聞いたり、館内を見学したりして、宮柵二と宮柵二記念館について学びました。

はやしあゆみイラスト展

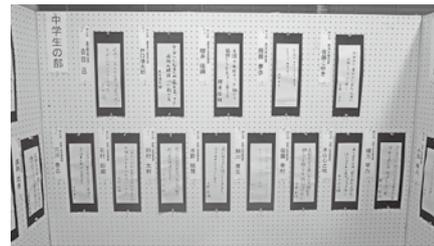


4月23日から6月29日まで、「はやしあゆみイラスト展」を開催しました。

はやしさんは、「越後魚沼ほりのうち宮柵二マップ」の制作者で、魚沼市在のイラストレーターです。『魚沼市で暮らす日常や思い出』をテーマに、地域の生活風景を描いたイラストを展示しました。

令和5年度も同時期に開催予定です。

第27回宮柵二記念館全国短歌大会 ジュニア部門入賞者短冊展



7月1日から8月31日まで、第27回宮柵二記念館全国短歌大会ジュニア部門入賞者短冊展を開催しました。

小学生の部・中学生の部・高校生の中で最優秀賞・選者賞・魚沼市長賞・新潟日報社賞・宮柵二記念館長賞に輝いた作品を受賞者自筆の短冊で鑑賞していただきました。第28回大会に向けた作品づくりの参考にしていただくため、小・中・高校生は入館無料としました。

令和5年度も同時期に第28回大会のジュニア部門短冊展を開催する予定です。

宮柵二講座



7月17日、歌人で「コスモス」選者の田宮朋子先生を講師にお迎えし、宮柵二講座を開催しました。演題は「高野公彦、『柵二』を詠む」です。

歌人で歌誌「コスモス」編集人の高野公彦氏は、師である宮柵二を繰り返し歌に詠んでいます。高野氏の歌をおして、宮柵二と高野公彦の関わりを解説いただきました。

講演会の模様を、魚沼市公式YouTubeチャンネルで公開しています。宮柵二記念館ホームページからご覧ください。

宮柵二講座は、令和5年度も同時期に開催予定です。

企画展開催記念講演会



7月24日、歌人で歌誌「コスモス」編集人の高野公彦氏を講師としてお招きしました。演題は「宮柵二の抒情と叙景」です。

宮柵二の12冊の歌集の中から26首を取り上げ、「抒情」と「叙景」の視点で解説していただきました。

講演会の模様を、魚沼市公式YouTubeチャンネルで公開しています。宮柵二記念館ホームページからご覧ください。

令和4年度事業② 令和4年度に実施した事業をご紹介します。

出前講座Ⅰ－小出高等学校



7月25日、新潟県立小出高等学校でジュニア短歌教室・出前講座を開催しました。講師は、歌人の田宮朋子先生、コスモス魚沼勉強会の内山真由美さん、眞島陽子さんです。講師は事前に届けられた生徒の短歌を添削して返却します。当日、生徒は講師による添削と講師からの直接の指導を参考に自作短歌の推敲を重ねます。完成した作品は、宮柊二記念館全国短歌大会に出品しました。

出前講座Ⅱ－堀之内小学校



8月30日・31日、魚沼市立堀之内小学校でジュニア短歌教室・出前講座を開催しました。講師は、コスモス魚沼勉強会の皆さんにお願いしました。各学級とも4名から6名の班に分かれ、各班を一人の講師が担当します。児童は事前に作っておいた短歌や時間中に考えた短歌を講師と相談しながら推敲します。完成した作品は、宮柊二記念館全国短歌大会に出品しました。

宮芳平デッサン展



「宮芳平デッサン展」を9月1日から10月30日まで開催しました。

宮芳平（1893～1971）は、宮柊二の叔父にあたり、堀之内に生まれました。旧制柏崎中学を卒業後、東京美術学校（現東京藝術大学美術学部）で学びます。その後、長野県諏訪で35年間の教師生活を送りました。森鷗外の短編小説「天龍」のモデルになった画家です。令和元年度に寄贈いただいた資料を順次紹介しています。令和5年度も同時期に開催予定です。

第28回宮柊二記念館全国短歌大会 選者・入賞者 色紙・短冊展



11月12日から1月15日まで、第28回宮柊二記念館全国短歌大会選者・入賞者 色紙・短冊展を開催しました。選者の大下一真先生と水上比呂美先生からは、色紙とサイン入り歌集をお寄せいただきました。一般部門特別賞受賞者からは自筆色紙を、ジュニア部門特別賞受賞者からは自筆短冊をお届けいただき、これらの作品を展示しました。秀逸と佳作の作品も紹介しました。令和5年度も同時期に第29回大会の色紙・短冊展を開催する予定です。

宮柊二デスマスク展示



12月6日から12月18日まで、第2展示室に宮柊二のデスマスクを展示しました。12月11日の宮柊二命日にあわせて毎年展示しています。宮柊二が書齋で使用していた机や眼鏡など愛用の品々を展示している第2展示室の一番奥、展示室全体が見渡せる場所に展示しました。11日には、今年もたくさんの方が訪れてくださいました。

短歌セミナー



1月15日、歌人で「コスモス」選者の橘芳園先生を講師にお迎えし、短歌セミナー・講演会を開催しました。演題は、「平沢興先生と宮柊二先生」です。新潟県出身の医学者で京都大学総長を務めた平沢興。その著作から引用した平沢興の言葉と宮柊二の作品を資料として、「平沢先生の言葉と宮先生の作品が重なる」とのお話をしていただきました。短歌セミナーは、令和5年度も同時期に開催予定です。

第一展示室 展示中



「多夜の歌」昭和三十年一箱根「七首中第七首」
病みあとの孤りごころに行き行きてするとき山の湖も見む

病みあとの孤りごころ
ろに行きゆきて
するどき山のみづう
みも見き

柁二



「日本挽歌」『鉄道草』旅情小吟 八首中第一首
由布川に落入る川を遠見ればみな激ちつ白波あぐる

由布川に落入る川を遠見
ればみな激ちつ、白波あ
ぐる 柁二

「宮家からの新たな寄託資料」

宮家から新たに寄託いただいた資料7点を順次展示しました。

現在公開中の作品は、収蔵資料紹介欄をご覧ください。



6月から9月に紹介した作品



9月から11月に紹介した作品



12月から1月に紹介した作品

宮柁二記念館ホームページ

アドレス変更のお知らせ

宮柁二記念館のホームページが新しくなりました。それに伴ってアドレスも変更になりました。下段「問合せ」ホームページ「欄を参照ください。」令和五年度企画展や第29回宮柁二記念館全国短歌大会等様々な情報を掲載いたしますので、ぜひご覧ください。

「宮柁二記念館短歌教室」のお知らせ

宮柁二記念館では、「コスモス」選者橘芳園先生を講師として、「宮柁二記念館短歌教室」を開催しています。四月・八月・十二月を除く年九回、原則として毎月第二日曜日に開催します。年度途中からの参加、添削のみの参加も歓迎します。年会費は3,000円です。詳細は、宮柁二記念館にお問い合わせください。

「宮柁二記念館友の会」のお知らせ

宮柁二記念館の活動支援と会員相互の交流を目的とする「宮柁二記念館友の会」の会員を募集しています。会員は宮柁二記念館への入館料が免除されます。また、記念館日より等が届けられます。年会費は1,000円です。詳細は、宮柁二記念館にお問い合わせください。

「新潟日報」連載開始のお知らせ

四月一日より新潟日報一面「文化の記憶」欄で宮柁二の作品を紹介する連載が始まります。タイトルは「宮柁二言の葉の泉」です。執筆は、高野公彦氏・桑原正紀氏・小島ゆかり氏・田宮朋子氏・水上比呂美氏の予定です。宮柁二記念館も資料提供などで協力しています。

宮柁二記念館だより 第58号

発行 2023. 3. 25

問合せ 宮柁二記念館 (〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内117-6) TEL・FAX 025-794-3800

メール miya-museum@city.uonuma.lg.jp ホームページ <https://www.city.uonuma.lg.jp/site/miyashuji/>